

Month / Contents

1月	● 新年互礼会(会員開発委員会) ● 定時社員総会(総務委員会) ● 京都会議
2月	● 2月例会・LDタイム(会員交流委員会)
3月	● 3月例会・LDタイム(地域創生委員会)
4月	● 4月例会・LDタイム(会員開発委員会) ● このぼりフェスタ1000 01
5月	● わんぱく相撲第10回高槻場所(青少年育成委員会) 02 ● 北地域8LOM合同例会(渉外委員会) ● みどりのカーニバル(地域創生委員会)
6月	● 6月例会・LDタイム(会員交流委員会) ● JICカップ U-11 少年少女サッカー大会 03 ● ASPACジャカルタ大会(インドネシア)
7月	● 7月例会・LDタイム(広報委員会) ● 近畿地区大会姫路大会 ● サマーコンファレンス
8月	● 臨時社員総会(総務委員会) ● 高槻まつり
9月	● 9月例会・LDタイム(青少年育成委員会) ● 地域事業(地域創生委員会) ● 大阪ブロック大会豊中大会
10月	● 親睦事業(会員交流委員会) ● 3LOM合同例会(主管)
11月	● 11月例会・LDタイム(会員開発委員会) ● 8LOM親睦事業(渉外委員会)
12月	● 卒業式(総務委員会) ● 会員大会(地域創生委員会)

01 このぼりフェスタ1000

高槻青年会議所の卒業生が作り上げた「このぼりフェスタ1000」も例年多くの地元ボランティアの方に支えられ、実施しています。現在は「このぼりフェスタ推進協議会」に出向し、毎年2月頃からこのぼりの修復作業やワイヤーチェック作業を行っています。そして春を迎え、いよいよこのぼり掲揚！当日は自転車置き場整備や出店運営を、そして最終はこのぼりの撤去まで、芥川の河川愛護と子供たちの健やかな成長を願い、お手伝いをさせていただいています。



02 わんぱく相撲

日本の伝統文化である相撲を通して、心身の鍛練と健康の増進を目的として1977年に東京青年会議所から全国に広まり、現在約4万人の小学生力士の参加する最大規模の相撲大会です。全国大会は東京の両国国技館で開催され、大相撲と同じ土俵で取組が行われます。地区大会となる高槻場所は、2023年に第10回目を迎えます。



03 JICカップ U-11 少年少女サッカー大会

JICカップは勝敗だけに拘らずお互いを認め合い健闘し合える精神を養うことと、魅力あるまちの発展をめざした日本青年会議所の事業です。2018年、高槻青年会議所として初めて、地区大会となるJICカップ高槻大会を開催させていただき、2022年度より高槻市サッカー連盟様との共催で開催しています。



高槻青年会議所の次代を担う 注目の新入会員からメッセージ！



大石 和希
Oishi Kazuki

普通に生活しては
できない経験、体験が得られました

2022年7月入会

担当例会では、地域の誰もが知る企業のトップ、市のリーダーの方々に直接お話しできる機会や、それらをまとめ発表する機会をいただきました。普通に生活してはできない経験、体験が得られ、自己成長にも繋がりました！皆さんと一緒にJCライフ楽しめませんか？

気付いたら沢山のかけがえのない
経験と仲間ができていました

2022年6月入会

歳を重ねるごとに出会いや成長の機会は減ってくるものですが、やれる事は全部やってみる！この精神で色んな地域活動や事業に参加してきたところ、気付いたら沢山のかけがえのない経験と仲間ができていました。進まなければ何もない、是非進んだ先の“何か”と一緒に見つけに行きましょう！



山崎 麻里子
Yamasaki Mariko

沢山の活動機会をいただき、
入会して良かったです！

2022年3月入会

学生かつ最年少という中での入会で、当初はとても緊張しておりましたが、自分の所属する委員の皆さんや、行事を通して知り合いになった方々もとてもよくしてくれて、楽しいなど感じるようになりました。救護という面においても沢山の活動機会を頂き、入会して良かったです！



川本 柊
Kawamoto Syu

環

WA

～つながりから新たな可能性を創出する～

一般社団法人 高槻青年会議所 受付/10:00～15:00 定休日/木曜・土曜・日曜・祝日

TEL 072-675-9374 mail:info@takatsuki-jc.jp 〒569-0078 大阪府高槻市大手町3番46号 高槻商工会議所内

発行/ 一般社団法人 高槻青年会議所 編集/ 広報委員会



一般社団法人高槻青年会議所はSDGsを推進しています。



第57代 理事長
加藤 良正

Katoh Yoshimasa

(株)デプロ
代表取締役

はじめに

1966年10月28日、当時63名の志高き青年のもと、この高槻青年会議所は350番目の青年会議所としてこの高槻・島本の地で誕生しました。高度経済成長期からバブル崩壊、そして想像し得ぬ苦難を乗り越えながら激動の時代を駆け抜け、今日までに地域に根付いた運動に先輩諸兄姉を始めとして当団体が大きく関わってきました。また、昨年は創立55周年の節目を迎え、「社会」「人材」「組織」「環境」「経済」を5本柱とした中長期ビジョンが策定されました。様々な考え方や価値観をもった人・企業・団体が、協力しながら社会課題にアプローチし、共に新たな価値を生み出していく。そんな地域社会を形つくるべく、56年の歴史と高い「志」を継承し、中長期ビジョンを軸とした活動を通じて、60周年に向けて邁進していきます。



メンバー同士のつながりの強化

多彩な仲間により構成される組織が目的を達成するためには、一人ひとりの共通認識をもつこと、活動へ関心を強くもつことが必要となります。そのためにはより多くの共感が必要となり、共感を生み出すためには関係性づくりが必要であると考えます。人と人のつながりを強化するのは、何度も対面で会うことを通して、相手の長所を感じたり、自身の考え方が相手と共有されたりすることで、お互いを深く理解する経験があるからです。現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で対面できない状況が多かったことで、非対面でも活動ができる環境が整ってきました。また、メンバーの過半数は新型コロナウイルス感染拡大の時期に入会したメンバーであるという状況もあります。つながりを強化するため、感染対策を考えた上で対面できる機会を増やすこと、リモートとリアルを組み合わせた活動にしていこうと、それによってどのような状況下においても関係性を深める交流しやすい環境づくりを目指してまいります。

持続化するよりよい組織づくり

組織を継続していくためには、それぞれの時代に応じた組織の在り方を追求する仕組みづくりが必要です。日本青年会議所には我々のような青年会議所メンバー向けの組織力を向上させるプログラムがあります。高槻青年会議所では率先して、そのプログラムを導入し、メンバー一人ひとりの意識向上を実現します。私たちの目的や使命における共通認識を持ち、それが一人ひとりの活動意義とつながるということを理解することで、強く共感をもった組織を作り、ひいては組織の発展と個人の成長を実現していきます。

体験から始まるJC活動への関心

青年会議所の活動は地域に根付いたものが中心となります。その各地の活動が、都道府県、地方、国家、世界と広がっていき、アプローチ方法が大きく異なります。青年会議所としての活動趣旨は変わりませんが、規模が変われば見え方が変わります。各規模の活動に参加することでそれぞれの機会に触れることができ、個人の成長に大きな影響を与えると考えています。まずは参加してもらうことを通じて自分自身の仕事や家庭、地域の活動に活かせることを感じる。それが組織内で共感されることを通じて、一つでも多くの成長の機会に参画する組織を目指します。

地域の課題発掘、解決するパートナー発掘

地域、各自治体にはそれぞれが抱える課題が存在します。我々は地域社会の活性化に取り組む団体である以上、それを知る必要があります。重要なのは地域の言葉に耳を傾けることだと考えます。そして、一緒に課題と解決イメージを考え、その地域に住む人々が明るくなる状態を目指していくことが必要です。数多くの自治が存在する中、まずは特定の地域コミュニティを選定することで地域とのつながりを強化し、解決策として継続的にアプローチができるパートナーが必要だと考えています。課題事例と解決事例は積み上げて行くことで、様々な事業へのノウハウへと転換させ、パートナーと協力して多くの地域へ情報を発信してまいります。

時代の変化に対応する次世代教育

子供達が教わる環境は、コロナ禍による急速なデジタル化により、デジタル教科書、リモート授業などが促進され、教える側やサポートする周りの人たちの状況も変わりました。今までは、学校や塾では先生と一緒に学ぶこと、家庭では家族と一緒に学ぶことが学びの中心でした。デジタル化が促進されることで、自分自身で調べて解決していくことが求められ、主体性が高まる一方、学びの中におけるコミュニケーションが減ることから認められるという機会が減っていると感じます。その中で必要とされるのは、共感のような人とのつながりで、人から承認されているという体感から得られる達成感であり、それが次の目標に向かって努力するきっかけになるということです。現在の子供達のおかれている現状を踏まえて、行政と意見交換しながら、時代の変化に対応できる青少年の育成を目指します。

高槻市防災ネットワークとの連携

災害とは突然訪れるもので、日頃からの備えが重要です。台風や地震など実際に大きな災害が起こった状況を想像してみてください。誰に助けを求め、誰から情報を求め、どのように行動すべきかわかるでしょうか。現代社会においては自治の加入率の低下や近隣住民の関係性の希薄化によって、各家庭での有事の際の行動に混乱する事例も多く見られます。情報はメディアを中心として流れているため、当事者でしか知ることができない情報、現場で欲しい情報が錯綜するような状況になることがあります。我々は2022年度に締結した高槻市防災ネットワークを活用して、有事を想定した在るべき姿を考えてまいります。

地域を巻き込んだ広報

我々の活動はどれだけの人々に伝わっているのでしょうか。誰のために、何のために、なぜ事業を行うのか、地域への影響が明確なものであれば、より多くの人の共感を得ることができます。事業を行った後の発信を繰り返すことで、我々の存在意義や必要性を感じてもらえるような広報の仕組づくりを実践していきます。地域の方々へ我々の活動への共感や興味をもってもらうためには、地域で関係のある、あらゆる団体と連携しながら一緒に広報を実施していくことが必要であると考えます。そして、1年を通じて活動の意義を共に伝え続けることで共感を生み出し、地域との相互理解を通じて、今後の活動にご協力していただける広報を実施してまいります。

地域へ浸透させる会員拡大

青年会議所は、活動に参加したメンバーの能力を向上させる成長の機会を提供し、リーダーとして活動する機会によってリーダーシップを養うことができます。そのためには、メンバー一人ひとりが入会して良かったと思える環境を整え、組織のポテンシャルを底上げする取り組みを実践し、新しい仲間を迎えやすい体制をつくる必要があります。また、広報と協力して地域の関係諸団体へ高槻青年会議所の活動を発信することで、一緒に活動してくれるメンバーを増やすきっかけや地域の方からこの団体で活躍してみたいと声がかかるような環境づくりを実施してまいります。

おわりに

近年、DXの推進が急激に進む中、ライフスタイルが変化し、新型コロナウイルス感染症対策としてウェブを中心としたインフラ強化が確立されています。それにより、どのような状況下でも活動ができる状態になってきている現状があります。このような状況だからこそ、我々はまちづくり団体の先駆者となり、誰のために、何のために、なぜ活動をするのか、どのような運動が最適なのかを考え、人と人との関係を強化し、メンバーが一致団結して地域から必要とされる魅力ある組織を構築してまいります。

2023年度、メンバー一同決意を新たに青年会議所活動に精励いたす所存でございます。何卒ご高承の上、一層のご指導を賜りますようお願いいたします。



直前理事長
高玉 要
Takatama Kaname
ステイラボジャパン合同会社
代表



監事
山口 展弘
Yamaguchi Nobuhiro
共立建設(株)
代表取締役



監事
竹中 健
Takenaka Ken
高槻市議会議員



副理事長 兼 新入会員審査会議議長
川端 康寛
Kawabata Yasuhiro
(株)ウィット
代表取締役



副理事長
別所 拓
Bessyo Taku
行政書士 別所総合法律事務所
代表



副理事長
松久保 豊
Matsukubo Yutaka
(株)エヌジーシー
専務取締役



LOM浸透室 室長
高岡 映俊
Takaoka Eishun
(株)TOK
代表取締役



副理事長 兼 専務理事
上元 裕輝
Uemoto Yuuki
(株)Bee Link
代表取締役



会員拡大会議 議長
松本 光隆
Matsumoto Mitsutaka
心光建設
代表



財政規則審査会議 議長
岸本 健
Kishimoto Ken
岸本木材店
マネージャー



事務局長
松本 佳奈
Matsumoto Kana
住友生命保険相互会社
支部長



出向理事
徳澄 博希
Tokuzumi Hiroki
(株)クテック
代表取締役



会員開発委員会
委員長
堀江 達也
Horie Tatsuya
(南)いりー級建築士事務所
取締役



会員交流委員会
委員長
田中 健太
Tanaka Kenta
(南)大明ハウジング
専務取締役



青少年育成委員会
委員長
早野 孝臣
Hayano Takaomi
(株)ウィット
営業



地域創生委員会
委員長
國友 拓哉
Kunitomo Takuya
(株)ガレージクニ
代表取締役



渉外委員会
委員長
芳中 雅史
Yoshinaka Masashi
ソニー生命保険(株)
ライフプランナー



広報委員会
委員長
出雲 恵里加
Izumo Erika
リヴィンホープ(株)
マネージャー



総務委員会
委員長
藤林 龍司
Fujibayashi Ryuji
ILL Girls Bar GeneRic
代表

委員会メンバー一人ひとりの個性や価値観を活かし、委員会の活動を通して交流を深め、信頼をつくることで、強固で柔軟な関係性を築き、共通認識のもとに団結し、JCI高槻のさらなる発展につながる委員会運営を行います。

会員同士が共に関係性や繋がりを強化することで、歴が浅いメンバーやJC活動に対して積極的ではないメンバーに意欲的に参加してもらうとともに、JC活動に対するのメリットや、やりがいを感じられるような運営を行います。

委員会メンバー一人ひとりが「全力で楽しむ」をテーマとし、率先して行動をすることで、当事者意識を発揮し、まわりを巻き込んでゆく行動を興すことにより、JCI高槻のさらなる躍進へとつながる委員会運営を行います。

多様化する地域の課題を知り解決に導いていくために、高槻・島本に根づく様々な諸団体との連携を図り、その関係性を強化し、互いに協力し合いながら地域貢献していくことでより良いまちを創生してまいります。

他LOMとの窓口となり、対外事業・諸大会に会員が参加しやすい環境を整えます。また、実際に参加した会員が持ち帰った有益な情報・学びをLOM全体に展開し、LOMの発展に寄与します。

会員一人ひとりが年間を通じて、JCI高槻の活動を定期的に発信することで、組織ブランディングの向上に取り組み、さらに地域の方々にJCI高槻への興味や共感を得ていただき、JCI高槻の価値を創造してまいります。

組織の屋台骨としての役割をそれぞれがしっかりと理解できるよう、JC活動以外の時も会員との関係性を深めていき、例会・事業への参加が楽しみになるような委員会運営を行います。